

日本のユニークベニユーを創造する

連載・第3回 地方都市のユニークベニユーの可能性を探る

何度も日本をインセンティブ旅行先として選択してもらう場合、地方都市のコンテンツの開発が重要だ。温泉、食、寺院、城、文化、紅葉、雪、民芸品、工業など、日本の魅力を満喫できるツールは日本各地に数多く存在する。そこで、使う立場から見た地方都市のユニークベニユーの可能性について森本氏に話を伺った。



森本 福夫 氏 (イベントサービス・代表取締役)

旅行会社で16年間アウトバウンド・インバウンド旅行・イベントの企画、営業などの業務を経て、1981年にイベントサービスを設立。当時は大型インセンティブ旅行でセールスマンを海外に連れて行く時代の黎明期だったが、ただ旅行に招待することから、現地で近い将来必ず表彰式やパーティなどのインセンティブイベントの企画・制作が求められると予測し、インセンティブイベントの制作に特化した会社を立ち上げた。現在は海外でのイベントだけでなく、インバウンドのグループに向けたイベントも多数制作している。

地方都市のユニークベニユーについてお話し下さい。

観光庁では現在〈グローバル MICE 都市／グローバル MICE 強化都市〉として東京、横浜市、愛知県／名古屋市、京都市、大阪府／大阪市、神戸市、福岡市、札幌市、仙台市、千葉県／千葉市、広島市、北九州市の12都市を、また〈観光立国ショーケース〉として、釧路市、金沢市、長崎市の3都市を選定しています。この他、沖縄県では中国人の訪日客に対し、沖縄で最低一泊する事を条件に訪日数次ビザを発給する制度があるため M & I のグループも多く訪沖しており、実質的な MICE 強化都市の一つと言えるでしょう。

これら強化都市の中の地方都市でも、インセンティブデスティネーションとして海外に人気が高い京都・札幌・沖縄などはそれぞれユニークベニユー開発・発信の注力度が高いと感じます。

横浜・神戸はともに港町で風情もあります。神戸は背後に山もあり、インセンティブデスティネーションとしてもっと選択されてよいのではと思いますが、現実にはそれほど多くないようです。横浜・千葉は東京に近く、また神戸は大阪に近い事もあって大都市に注目が集まる余波で主たる滞在地に選ばれにくい側面もあるでしょう。

今後の注目都市は金沢で、新幹線が開通してほぼ2年になりますが、市の統計では年間のレジャーツーリストと M & I 関連の海外の Visitor の合計はまだ少なく25万人程度となっており、今後の飛躍のためにはインセンティブイベントの受け皿としてより多いユニークベニユーの開発が必須でしょう。

上記16都市の中から今回は6都市を選んでみました。

金 沢：

これからの発展が期待される Destination。市では2020年のインバウンド入れ込み総数を年間40万人と見込んでおり、これはレジャーツーリストを含めての数字であるので、その内 MICE の数は相当少ないと思われる。大規模インセンティブは追わず、ハイエンドで付加価値の高い中規模グループを誘致する方向が現実的。であれば、大型会場は当面必要がないので、現存する伝統的なベニユーの他、中型会場の開発で充分だろう。新幹線開通後ほぼ2年が経過しているが、世界のマーケットへまずは金沢を認知させる事が急務。



金沢城 五十間長屋

札 幌：

大阪・沖縄と並び Seller と Buyer の参加が多く質の高い MICE の展示会を開催しており、会場を含むコンテンツを広く発信している。海外では幾つか例があるが、競馬場をユニークベニユーとして開発するなど、インセンティブにおけるユニークベニユーの重要性を理解している市の一つ。



JRA 競馬場

沖 縄：

大阪・札幌同様、インセンティブの Buyer が求めるものを良く理解している。利用できる洞窟などもあるが最近の新しいユニークベニユーは、うるま市の石川多目的ドームと世界遺産勝連城跡だろう。今後は海外バイヤーからの要望が多い首里城の内庭の開放が望まれる。



石川多目的ドーム

名古屋：

国際会議の開催件数は多いものの、インセンティブツアーではまだまだ選択されないようだ。MICE 誘致に向けたユニークベニユーのガイドブックも出来ており、さまざまなユニークベニユーの開発も行っているが、まずは市としての魅力・出来ることの発信が急務。モノづくりの拠点として発達してきた名古屋では「リニア・鉄道館」や「トヨタ産業技術記念館」などを勧めたい。



トヨタ産業技術館提供

神 戸：

国内学会などが多く、インバウンド誘致はこれからの課題。小グループには伝統的な会場なら幾つかある神社を提案すると良いだろう。民間施設ではあるが、醸造した日本酒がノーベル賞の晩餐会の食卓を飾った事で知られる灘の酒蔵のホールもインバウンドに開放されている。小グループの会議や<和>テーマのカクテルパーティなどに良い風情がある会場だ。



生田神社

京 都：

アメリカの大手旅行雑誌「Travel + Leisure (トラベル・アンド・レジャー)」で2014年・2015年と2年連続で世界都市ランキング (The World's Best Cities) で1位に輝いた「京都」が、2016年は6位。が、さすがの人気訪問都市だけあって神社・仏閣など豊富なユニークベニユーを誇っている。屋外でのカクテル、屋内でのディナーなどができ、社寺が多い所も強みだ。小グループには〈動くユニークベニユー=電車チャーター〉を勧めるのも良いだろう。



元離宮二条城 © Kyoto Convention & Visitors Bureau

ありがとうございました。

次回のテーマ ユニークベニユーの今とこれから (対談を予定)